

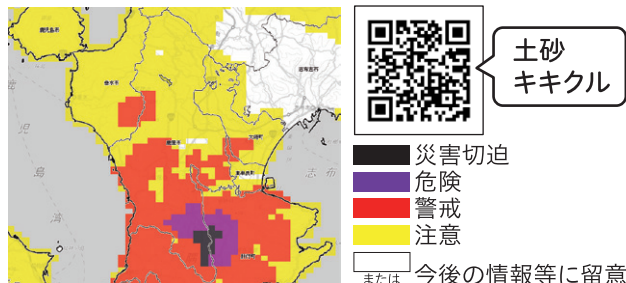
土砂災害に備える

レベル4土砂災害危険警報は、土砂災害の危険度が高まった場合に発表される防災情報です。発表されたときは、「いつ土砂災害が起きてもおかしくない」という非常に危険な状態ですので、危険な場所にいる人はすぐに避難しましょう。

土砂キキクルの確認方法

地域ごとの土砂災害の危険度は、気象庁の「土砂キキクル」で確認できます。

レベル3大雨警報が発表されたら、自分のいる場所の危険度を確認して、危険度分布情報が赤色になった時は、レベル4土砂災害危険警報が発表されていなくても早めに避難しましょう。



土砂災害の種類と前兆

土砂災害は、レベル4土砂災害危険警報が発表されていなくても発生する可能性があります。次のような前兆現象を察知したときは、直ちに周りの人と安全な場所に避難するとともに、関係機関に通報してください。

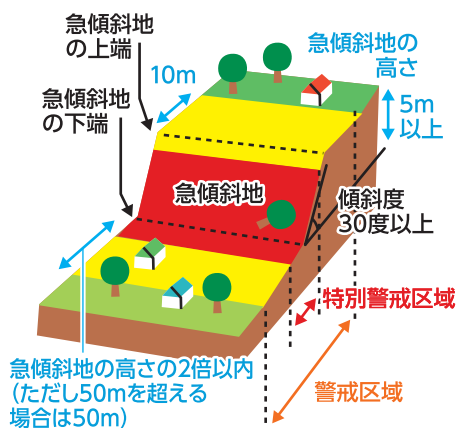
○土砂災害警戒区域等

土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)
土砂災害が発生した場合、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域

土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)
建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。

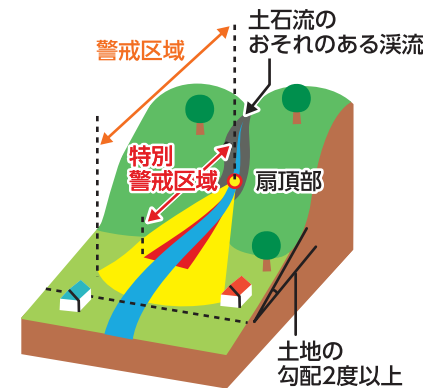


前兆現象

- がけに割れ目が見える
- がけから水が噴出する
- がけから小石がパラパラ落ちてくる

土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象です。

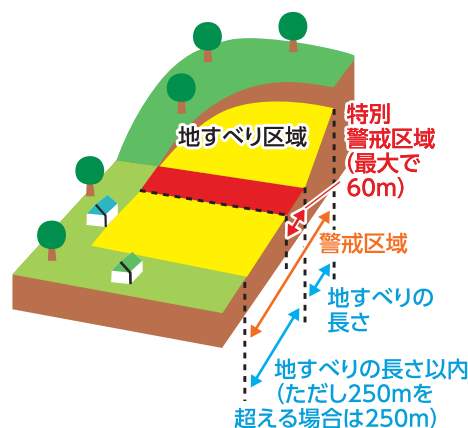


前兆現象

- 山鳴りがする
- 川の水が濁り、流木が混ざりはじめる
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる

地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。



前兆現象

- 地面にひび割れができる
- 沢や井戸の水が濁る
- 斜面から水が噴き出す

地震に備える

地震は、台風や土砂災害などと違い、いつどこで発生するか予測の難しい自然災害です。いざという時にあわてず適切に行動できるよう、日頃から地震に対する知識や心構えを身に付けておきましょう。



想定される地震

震源	最大震度	最大津波高
種子島東方沖	6弱	2.5m
南海トラフ【西側】	6弱	3.2m
鹿児島湾直下	6弱	2.36m

地震発生時の行動

地震発生	1分~5分	5分~10分	10分~数時間
命を守る ○落ち着いて自分の身を守る ※家屋倒壊や土砂災害警戒区域内にいる場合はすぐに避難 ※沿岸部は津波のおそれがあるのですぐに避難	家族を守る ○家族の安全を確認 ○火元を確認・初期消火 ○ケガをしないように靴を履く ※余震に注意	地域を守る ○隣近所の安全を確認 ○ラジオなどで情報を確認 ○ガスの元栓を閉める ※通電火災を防ぐためブレーカーを切って避難	助け合い ○協力して救出活動 ○水や食料は備蓄品でまかなう ○災害情報・被害情報の収集 ※壊れた家には入らない

こんな時は!

路上にいる!

- 看板や割れたガラスの落下に注意
- ブロック塀などの倒壊に注意

車を運転している!

- 道路の左側に止め、エンジンを切る
- キーは付けたまま、ロックもしない
- 貴重品は持ち出し、徒歩で避難

エレベーターの中にいる!

- 最寄りの階に停止させ、すぐに降りる

地震の揺れと想定被害

- 7** 揺れて自分の意志で行動ができない。大きな地割れ、山崩れ、家屋の倒壊が多発する。
- 6強** はわないと動けない。ブロック塀が崩れ、戸がはずれて飛ぶこともある。
- 6弱** 立っていることが困難になる。壁のタイルや窓ガラスが壊れ、壁に亀裂が生じる。
- 5強** 多くの方が行動に支障を感じる。タンスなど重い家具や、屋外では自動販売機が倒れる。
- 5弱** 一部の人は行動に支障を感じる。家具が移動し、食器や本が落ちる。
- 4** 眠っている人のほとんどが目を覚ます。座りの悪い置物が倒れることもある。